資料１

群馬県公共施設のあり方検討委員会　答申(H20.10.17) 抜粋
【近代美術館・館林美術館】

１　現　状

(1) 近代美術館

近代美術館は、明治１００年記念事業の一環として昭和４９年１０月に開館して以来、作品の収集・保存、常設展示・企画展示、解説会をはじめとした教育普及事業など、様々な活動を行ってきたが、３０年あまりが経過し、施設が老朽化したことから大規模改修を行い、平成２０年４月にリニューアルオープンした。

収蔵作品は、日本と中国の古美術からなる戸方庵井上コレクションをはじめとして、群馬県ゆかりの画家である福沢一郎、山口薫などのコレクション、日本と西洋の近代美術、現代美術、染織作品など、幅広い分野に及んでいる。

入館者は、開館以来４００万人を超え、平均の年間入館者は約１３万３千人（昭和４９～平成１６年度）となっている。

(2) 館林美術館

館林美術館は、より多くの県民に美術作品鑑賞の機会を提供することを目的として、近代美術館のある高崎市から遠隔地にあたる東毛地域に、平成１３年１０月、２館目の県立美術館として開館し、企画展示や本県の収蔵する国内外の作品によるコレクション展示のほか、様々な教育普及活動を行っている。

近現代美術における豊かな創造の歩みを理解するための作品収集を基本に、なかでも「自然と人間」をテーマとして、調和、共生、対峙など自然と人間の様々な関わりを表現した、国内外の作品を収集している。

年間入館者は約３万９千人（平成１８年度）となっている。

２　課　題

(1) 近代美術館と館林美術館は管理運営に多額の経費を要しているが、現在の厳しい財政状況下にあって、県有施設として２つの美術館は必要か。

(2) 利用者を増加（収入の増加を含む。）させるため、どのような取組を行うべきか。

３　施設の今後のあり方

(1) 施設の必要性について

①県立の美術館として２館ある必要性については疑問がある。しかし、２館とも美術館として一定の役割は果たしており、また、館林美術館は、平成１３年に開設した新しい施設であることなどから存続とする。ただし、当面２館の運営を継続するとしても、その役割分担や位置づけについて早急に検討するとともに、利用者増加の積極的な努力を強く求めたい。

②近代美術館は県の中心的美術館として、今後とも幅広い役割をより効果的に果たすことが望まれているが、館林美術館は、より地域に密着した形の美術館として、その役割を検討すべきであり、運営についても地域の方々の理解と連携協力により行われるべきである。

(2) 管理運営方法について

①管理運営に多額の経費を要する施設であることから、両館の連携・協力による効率的・効果的な運営や施設全体としての経費削減について、具体的な検討を行う必要がある。また、施設のプラスイメージを生かした新たな歳入確保策についても、具体的な検討を行う必要がある。

○両美術館の共同による研究・展示の実施、展示の巡回や物品等の共同購入などについて検討する。

○近代美術館については、同一敷地内の歴史博物館との事務局統合や群馬の森等との連携・一体化など、管理運営の効率化について検討する。

○ポスター等への企業の広告掲載、企業協賛による事業実施など、歳入確保策について検討する。

②両館ともに優れた景観の中に位置する芸術・文化施設であることから、観光施設としての利用も視野に入れ、新たな利用促進策について検討するなど、県民に親しまれ、多くの県民が訪れる施設運営について検討する必要がある。

○県民に開かれた美術館として、県民ニーズを踏まえた施設の有効活用を検討するとともに、特に、館林美術館については、施設の地域開放について、地域住民や市町村等の意見・要望等をよく聞いて検討する。

○教育施設としての役割も十分踏まえて、学校利用の促進や子供向けのワークショップ、学校への移動教室など教育機能の充実について検討する。

○地域特性を生かした企画展示・巡回展示などについて検討する。

(3) 管理運営主体について

①館林美術館については、地域に根ざした美術館としての機能をより発揮させる観点から、地元の館林市や市民等の運営への参画、館林市等を指定管理者とする運営形態について検討するとともに、将来的な館林市等への移管・譲渡の可能性を含めて、館林市等とよく話し合いをする必要がある。

②両館とも、ボランティアとの協働による運営をさらに進めるほか、指定管理者制度導入について、他県での導入事例の検証を行うなど、同制度の導入の可能性についても検討する必要がある。

(4) その他

①当面２館の運営を継続するとしても、その管理運営について、徹底した点検と見直しを求めるものであり、今後行う改善等の取組については、一定の年限を区切って、目標を設定して行い、その取組や結果の検証を行う必要がある。